

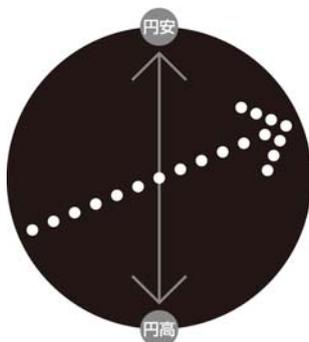
# ユーロ睨みの状況は続く

～マーケット・カルテ 7月号

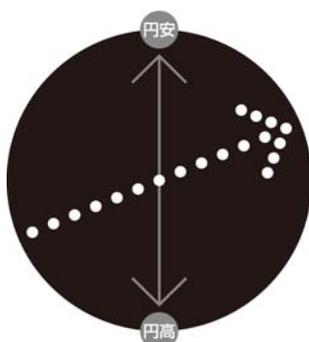


シニアエコノミスト 上野 剛志  
tueno@nli-research.co.jp

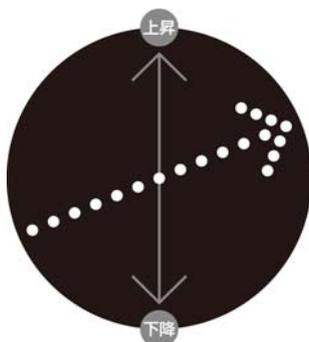
(執筆時点：2012/6/19)



円・ドル半年後の見通し



円・ユーロ半年後の見通し



長期金利半年後の見通し

6月17日のギリシャ再選挙にて緊縮財政派が勝利し、ギリシャのユーロ離脱という最悪のシナリオは一旦回避されたが、市場の警戒感解消せず、ユーロや株へ資金を戻す動きは限定的であった。それは、ギリシャは5月の選挙前の状況に戻っただけで、財政再建の実行力を問われる状況に変わりはなく、スペインの銀行問題も全く解決していないためだ。欧州危機を巡る警戒感は今後も続くと思われる。ユーロは上値が重くなりやすいと見る。ただし、今後半年という長めの時間軸では、EUサイドの歩み寄りも含め、政策対応が徐々に進むに従ってユーロを買い戻す動きが出始め、ユーロは現状よりもやや上昇（円安ユーロ高）するという見方に変更はない。

ドルについても、最近では米国景気の減速を示唆する指標が増えている。米国景気は緩やかな回復を続けると考えているが、景気に再び加速感が見られるまではFRBの追加緩和期待も続く。従って、円安ドル高トレンドが出るにはもう少し時間を要するだろう。

長期金利については、根強いリスク回避姿勢から債券需要の強い状況が続くとみられることから、しばらくは低位で推移すると見る。ただし、現在の水準はそもそもファンダメンタルズでは説明し難い低水準であるため、夏場以降、ユーロ圏に対する緊張感が徐々に緩和し、米景気回復期待に伴う緩やかな米金利上昇に促される形で、小幅ながら上昇に転じると見ている。



うえの・つよし |

1998年日本生命保険相互会社入社、2001年同融資部門財務審査部配属、2007年日本経済研究センターへ派遣、2008年米経済調査機関 The Conference Boardへ派遣、2009年ニッセイ基礎研究所（現職）。

### 円・ドル為替レートの推移（直近1年）



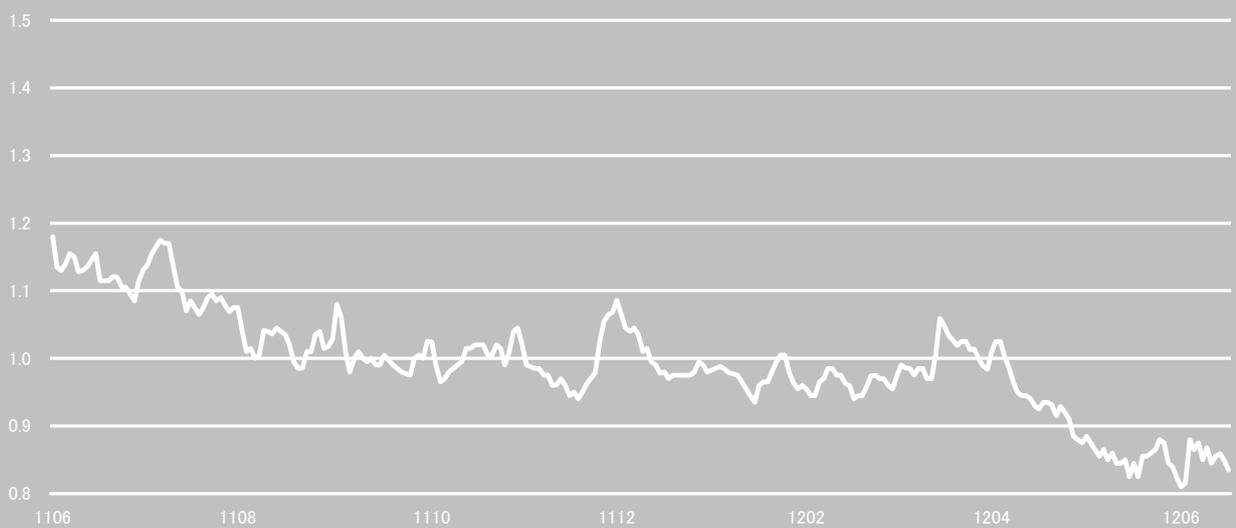
(資料)日本銀行

### 円・ユーロ為替レートの推移（直近1年）



(資料)ECB

### 長期金利（10年国債利回り）の推移（直近1年）



(資料)日本証券業協会